



関東大震災から100年 防災を考える

今から100年前の1923年9月1日に関東大震災が発生しました。東京、神奈川を中心とする南関東に大きな被害と10万人を超える犠牲者を出しました。また、1959年9月には伊勢湾台風が起き、東海地方を中心に5千人を超す犠牲者が出ました。直径700キロに及ぶ地域を暴風雨に巻き込みながら縦断したため、ほぼ全国にわたって甚大な被害をもたらしました。そのとき十分な対策がされていれば助かった命もあっただろうと防災意識の重要性が再認識され、この二つの災害を教訓として1960年に「防災の日」は制定されました。もともと日本は地震や津波、高波、台風、豪雨、洪水など自然災害が多い国です。防災対策に力を入れることが、災害の被害を未然に防止することや最小限に抑えることに繋がると考えられました。そのため「防災の日」は災害に対する認識を深めたり、備えや対策を強化することが目的とされています。過去の悲惨な出来事や、先祖代々の方々の思いがたくさん込められています。今年の防災の日はもう過ぎてしまいましたが、これから、少しでもいいので自然災害や防災について考える一日を作ってみませんか。私たちも知識を深め、防災対策を見直してみましよう。

毎年9月1日の「防災の日」を含む一週間は「防災週間」です。この期間には全国で防災に関する講演会や、防災訓練ポスターや標語づくりなどが行われており、自然災害に対する意識を高めたり、対策をしたりするきっかけとなります。秋の行楽シーズンを前に気が緩みがちなときだからこそ、そういう行事があるのはよいですね。

【担当】セラミック科1年古賀柚・デザイン科1年今井若津

初期の火災を消火するための消防用設備

みなさんは消火器について知っていますか？消火器とは、家や公共施設で起こる火災などを初期消火で抑えるためのものです。1学期の避難訓練で消防士の方より「この学校には約124個の消火器があります」と教えていただきましたが、使い方を覚えていますか？正しい使い方がわからなければ消火が間に合いません。もう一度おさらいしておきましょう！

まず、火元から7、8メートル離れたところに消火器を持っていきます。このとき自分の身を守るために風上側に立ち、消火器の安全ピンを抜きます。次に、ホースを外し、ホースの先端を持って火元に向けます。最後に、レバーを強く握って低い姿勢で放射します。火を消すときは、火の根元をねらい、手前からほうきで掃くようにすると良いです。みなさんも、日頃から消火器のある場所を確認して、火災などの災害に備えておきましょう！

【担当】機械科1年 田中柝音・田中寿修

間違えやすい災害時のNG行動

地震、台風、集中豪雨、火災など災害が起きた時、うっかりとってしまう行動で二次災害を招いてしまう恐れがあります。

地震発生後はガス漏れをしている可能性があります。停電したあとに、ロウソクやライターの火を灯したり、電気のスイッチを押してしまうと、火災や爆発がおきることがあり危険です。もし停電したら懐中電灯やスマホを使って、明かりを保ちましょう。また、通電火災を起こさないようブレーカーを落とすことも大事です。

他にも気を付けたいことは、避難するときは車で避難しないことです。車に乗るとより早く避難できますが、皆がそうするとおぼろげ渋滞を招くことになり、緊急車両の通行を妨げ迷惑がかかります。そうなる前に日頃から避難場所を確認しておき、災害が起きたときは近所の高台に避難するのが安全です。もし、乗車中に災害が起きた場合は、安全な場所に駐車します。やむを得ず道路上に置いて避難するときは、車を道路左側に寄せて駐車しエンジンを切り、ドアロックをしないでエンジンキーはつけたまま車から降り避難しましょう。

いざ災害が起きるとパニックになりそうですが、NG行動を知っておくことで、起きた際に自分が先陣をきって行動に移すことができるようになりますね。

【担当】セラミック科1年池田望・デザイン科1年諸岡麻衣

漫画研究部によるマンガでつなぐremember



次回発行は11月11日を予定しています